

日本小児感染症学会若手会員研修会第1回水戸偕楽園セミナー

症例検討会 2

笠井正志*

初日最後の演目。お風呂と宴会があるから 50 分で終わるようにと、厳命があった。スライドは 90 枚近く用意していたのだが、ほとんど使わず、重症感染症のごくごく初期マネージメントの話をした。ほとんど感染症とは関係のない、オーディエンスとの掛け合いをしてきた。「重症感染症が君の当直帯に来てしまったらどうする？」という内容であった。そのなかで「身を守ることの重要性」について面白いエピソードがあったので、そのエピソードを紹介する。

講師 「重症感染症っぽい患者さんが救急車で来る。酸素とかモニターとかラインとか、そんなことよりずっと大事なことがあります。それは何でしょうか？」

参加者一同 「…」

講師 「身を守る、それが大事です。例えばどんなことをしますか？」

某イケメン若手医師 「わかりました。患者さんの親御さんに『超重症なので、命が危ないかもしれない』と説明をすること!!」

講師 「(絶句) 救命治療の始まりに、いきなりですか…」

表 Severe sepsis 初期蘇生

-
- ・まずはプライドを捨て、人を集める。
1 人だけでは患者を救えない。
 - ・また起炎微生物不明な状況で観血的処置を行うため、手袋、サージカルマスク、ガウン、ゴーグルなどの**個人防衛具 (personal protective equipment)** の適切な着用が必須である。
-

一同爆笑。

PPE (personal protective equipment : 感染個人防衛具) のことを意味して質問したつもりだが、救急外来でもまれまくった若手医師には、どうやら「social に身を守ること」ととらえてくださったそうである。

いずれも大事なことである。

コーディネーターの田中先生から「できるだけインターアクティブに」という無茶なご要望をいただき、当初は荷が重いと感じていたが、参加者の皆様方の温かいご協力で、愉快的な症例検討会のファシリテーターを務めることができた。ありがとうございました。

小児感染症の魅力発信に、これからも私なりにできる限り協力させていただきたいと思う。

* * *

* 丸の内病院母子医療センター小児科